

茨城県
教育
研究会

会 報

第173号

<「カリキュラムマネジメント」の研究と、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善>

特集 「本年度の事業のまとめ・県外派遣研修報告」

平成29年3月3日
 茨城県教育研究会
 代表者 田邊 一男
 事務局 水戸市大場町933-1
 教育プラザいばらき内
 TEL 029-269-1300
 FAX 029-269-1304



シンボル大銀杏と異年齢集団活動（阿見町立阿見小学校）

学校統合を見据えた学校づくり



茨城県教育研究会 副会長

高田 和信

阿見小学校では特別活動の研究を進めており、学校生活の基盤となる学級をよりよい集団にしようと、全校児童が話し合い活動を行っています。

研究を進めるようになったきっかけは、話し合い活動、異年齢集団活動の機会を増やすことで、児童自らが諸問題の解決を図れるような実践的な態度を育成することや、平成三十年度から阿見小学校と統合になる吉原小学校の児童が安心して学校生活を送ることができるよう集団づくりを進めることが大切であると考えたからです。

そこで、発達段階に応じて自主的・実践的な態度を身に付け、望ましい集団づくりを行えるような児童を育成するために、特に「(一)学校や学級の生活づくり」の話し合い活動で、担任の望ましい児童へのかかわりを研究のねらいとしました。

本年度は、全担任が授業研究を

行うにあたり、特別活動のすばらしい実践をされている近隣の小学校の先生から講話をいただいたり実際に授業を見せていただいたりしました。

低学年では「がっきゅうスポーツたいかいをしよう」「六年生となかよくあそぼう」、中学年では、「もくどうせいそうのルールを決めよう」、高学年では、「転校したR君にプレゼントを贈ろう」「一年生とハロウィンパーティーをしよう」などの議題で、どの学級も一月現在十回以上の話し合い活動を行い、よりよい学級づくりや異年齢集団活動を行っています。

児童がよりよい生活を築くために集団としての意見をまとめる方法などを身に付け、また、集団の秩序や規範、集団活動の方法などを自分たちで決め実践することができるよう、担任の望ましい児童へのかかわりの研究を継続していきたいと思っています。



**第 68 回
茨城県教育振興大会並びに研修会**
平成29年2月7日(火) 茨城県立県民文化センター

- 教育論文の発表
- 永年勤続教育功労者の紹介
- 教育論文優秀者の表彰
- 大会宣言決議
- 講演会

大会宣言

茨城県学校長会と茨城県教育研究会は、永年にわたる互いに連携しながら、本県教育の充実・発展のため、研究と実践を重ね、その成果を上げてきた。

教育を取り巻く環境が大きく変化している今日、東日本大震災等の教訓を生かし、かけがえのない自他の命を大切にすることを基盤として、生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をより一層育むことが、我々には求められている。

このときに当たり、我々は、社会の要請を踏まえながら、家庭・地域の願いと自らの使命を強く自覚し、創意と活力に満ちた学校づくりを推進して、教育の目的を実現しなければならぬ。

本県学校長会と教育研究

会は、これまでの取組の成果と課題を明確にし、常に改善を図りながら、一人一人が輝き、自立する子供の育成に情熱を注ぎ、県民の信頼と期待にこたえていく決意である。

ここに、第68回茨城県教育振興大会開催に当たり、次の事項に全力を尽くすことを宣言する。

記

- 一 子供の安全・安心を確保する。
- 一 学ぶ意欲を育む。
- 一 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。
- 一 創意ある教育活動を展開する。
- 一 信頼と期待に応える教職員を目指す。

平成二十九年二月七日
茨城県学校長会
茨城県教育研究会

未来の担い手の育成のために

茨城県学校長会
茨城県教育研究会

会長 田邊 一男

この度、永年にわたり児童生徒の教育に携わり、本県教育の充実・発展に寄与されましたご功績により感謝状を受けられます一四八人の会員の皆様に心から感謝とお祝いを申し上げます。

昨年四月に、甚大な人的・物的被害をもたらした熊本地震が発生しました。本県の子供たちは、東日本大震災や関東・東北豪雨の際に、全国から寄せられた温かい励ましや支援物資等に元氣と勇氣をもらった経験をしており、それぞれの学校において、募金活動や必要物資の提供などの支援活動が迅速に展開されました。子供たちの純粋な心に寄り添い、ご支援・ご協力くださいました教職員や、地域・保護者の皆様、そして教育行政関係者等の皆様に、改めて感謝申し上げます。

中央教育審議会から平成二十八年十二月二十一日に、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要の方策等について(答申)」が出されました。目指すべき理念として「社会に開かれた教育課程」が位置付けられた今回の改定は、予測困難な時代だからこそ一人一人が未来の担い手になり得るといふ可能性を前提として、変化を前向きに受け止めようとする、人間ならではの感性や創造性、協働する姿勢等、つまりは人間

としてのよさや強みを、社会全体で引き出そうとする、ある意味異次元のアプローチを提案していると感じます。

これをしっかりと見越して、県の新「いばらき教育プラン」には、基本テーマに「子どもたちの自主性・自立性を育もう」とのキーワードが盛り込まれ、特に、生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児期からの家庭教育や就学前教育の充実を重要視しています。

こうした中、県学校長会は現在、「第2期中期教育ビジョン」を推進し、新たな視点として加えた「教員が子供と向き合う時間の確保によるきめ細かな質の高い教育の推進」を目指しております。

また、県教育研究会においては、教育に関する調査研究、教育課程の実践的研究、研究紀要等の発刊などを精力的に行っております。併せて、これからの教育の方向性を見定めながら、「業務の効率化」を進め、組織の活性化を図ってまいりました。

本年度の教育論文事業にも、一九一点もの応募をいただき、会員の皆様の熱心な取組に頭が下がるとともに、感動を覚えています。

県学校長会、県教育研究会とも、未来の担い手である子供たちを育成するため、会員の資質・能力の向上を図るとともに、職場環境を改善充実させるためにある組織です。教職員一人一人が強い使命感と高い倫理観をもち、互いに切磋琢磨しながら高め合っている組織として進化・発展できるように、今後とも主体的・協働的に活動に参加してまいります。

平成 28 年度第 51 回教育論文表彰並びに発表

茨城県教育研究会主催、茨城県教育委員会後援による第 51 回教育論文表彰式が、平成 29 年 2 月 7 日(火)に開催された茨城県教育振興大会の中で、盛大に執り行われました。

第一部では、優秀賞を代表して、行方市立北浦中学校と常陸太田市立瑞竜中学校が論文発表を行いました。

第二部では、榎戸元教育論文委員長による審査経過報告の後、表彰が行われました。優秀賞(五名)、優良賞(二十五名)、佳作(十三名)の受賞者は、以下のとおりです。



【優秀賞】

【茨城県知事賞・茨城県教育研究会会長賞】

1 生徒指導 「チーム学校」による不登校生徒を生まない指導の在り方／治療的予防と教育的予防を通して、行方市立北浦中学校 校長 横田 英一 外全職員

2 国語 文章の構成や展開、表現の仕方について、評価する力を育てる国語科学習指導の在り方／二つの作品を読み比べ、解説書を作る活動を通して、常陸太田市立瑞竜中学校 教諭 渡邊 護

3 人権教育 自分に誇りを持ち、人を大切にすることの大切さを育む教育活動を通して、錫田市立錫田北中学校 校長 大原 甚一 外職員一同

4 学校健康教育 心身共に健康で笑顔がキラリ輝く南っ子の育成／自己効力感の向上を目指した学校健康教育の推進を通して、稲敷市立あずま南小学校 校長 菊地 正美 外全職員

5 学習指導 自ら思考し、他者と協同的に課題を解決していく力を育てる学習指導の在り方／生徒が主体的にかかわる「協同タイム」の工夫を通して、取手市立取手第一中学校 校長 戸部 明彦 外職員一同

【優良賞 (茨城県教育研究会会長賞)】

1 道徳 自己の生き方について考えを深め、実効性のある力を育てる道徳科授業の在り方／小学校第一学年における問題解決型学習の工夫を通して、筑西市立小栗小学校 教諭 長堀 美穂

2 英語 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる英語科学習指導／Readers Theaterの手法を用いて、筑西市立下館南中学校 教諭 大澤 一洋

3 算数・数学 学ぶ楽しさを実感できる算数科学習指導の在り方／ユニバーサルデザインの視点を取り入れて、日立市立立川小学校 校長 矢板 久 外十七人

4 特別支援教育 特別支援学級におけるアクティブラーニングを取り入れた授業づくりの在り方／基礎となる表現力を育成する教材・教具の工夫を通して、神栖市立神栖第三中学校 教諭 鈴木 由美子

5 体育 保健体育 できる喜びを味わい主体的に運動に取り組む児童の育成／主体的に課題解決に取り組む体育科指導の工夫を通して、古河市立古河第二小学校 教諭 黒川 貴司

6 学級経営 児童一人一人が認め合い、励まし合える学級集団の育成／育てるカウンセリングを取り入れた活動を中心として、筑西市立下館小学校 教諭 松本 和代

7 学校図書館教育 読書活動における量から質への転換をはかるための実践／より良い読書活動を推進するうえでのピリオパトルの有用性について、日立市立榎形小学校 教諭 渡邊 仁子

8 教育課程 学力向上を目指した学習指導の工夫改善／学校組織を生かした検証改善サイクルの充実を通して、桜川市立桃山中学校 教諭 瀬出井 啓

9 国語 確かな読み力を深める国語科学習指導のあり方／適切な言語活動を位置付けた指導過程の工夫を通して、潮来市立牛堀小学校 校長 志村 一 外全職員

10 算数・数学 数学的な思考力・表現力を育てる算数科学習指導の在り方／小学校第五学年における算数の充実と学び合う活動の工夫を通して、牛久市立東野小学校 教諭 島田 博子

11 算数・数学 数学的な思考力・表現力をはぐむ算数科学習指導／学び合う活動の充実を目指して、鹿嶋市立鉢形小学校 教諭 内藤 啓子 外職員一同

12 家庭 技術家庭 進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育む技術科指導の在り方／エネルギー変換学習におけるアクティブラーニングを通して、筑西市立協和中学校 教諭 池羽 浩美

13 理科 説明する力を育み、科学的思考力を高める理科指導のあり方／波三授業スタイルにおける主体的、協働的な学習活動を多面的に考えたり、公平に判断したりしたことを表現し説明する能力を育てる社会科学習指導の在り方／思考過程を可視化するノートの構造化と、社会的現象について様々な立場から考え交流する学習活動の工夫を通して、筑西市立下館小学校 教諭 大島 健

14 社会 一人一人の児童が確かな学力を身に付けるための指導の在り方／見通しをもった観察・実験による科学的な思考力・表現力の育成を目指した授業実践、鹿嶋市立三笠小学校 教諭 清水 仁美

16 理科 主体的、対話的に学ぶ理科学習指導の在り方／小学校第六学年「もの燃え方」「水よう液の性質」における導入の工夫や話し合い活動の充実を通して、かすみがうり市立下館吉東小学校 教諭 本田 徹

17 算数・数学 数学的な思考力・表現力を育てる算数科学習指導の在り方／ユニバーサルデザインの視点に立った学習活動の工夫を通して、常陸大宮市立大宮小学校 教諭 関 好美

18 音楽 思いや意図をもって思考判断し、表現を工夫する力を育てる音楽科学習指導の在り方／第六学年「雨の音楽をつくらう」における楽曲に対するイメージを表現するための協働的な学習を通して、古河市立仁連小学校 教諭 楠本 博音

19 算数・数学 全員が楽しく「わかる」算数科の授業づくり／ユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業の実践を通して、坂東市立飯島小学校 教諭 三井 早苗

20 社会 社会的な現象の関連を深く捉え、地域を見つめる力を育てる社会科学習の在り方／第五学年「低い土地のくらし」における岐阜県海津市と茨城県那珂市の比較を通じた主体的な学習と協働的な学習を通して、那珂市立菅谷西小学校 教諭 武石 弘之

21 生活・総合 日本の伝統文化への理解を深め、よさを実感する指導の在り方／第五学年「つくばスタイル」を中心とした、アクティブラーニング型教育活動の継続的な実践を通して、つくば市立輝翔学園谷田部南小学校 教諭 田村 雅子

22 国語 「伝統的な言語文化」に親しむ国語科学習指導の在り方／第四学年「ことわざブック」を中心とした指導を通して、龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校 教諭 羽田 美穂

23 特別活動 仲良く助け合い学級生活を楽しくする学級活動の指導の在り方／小学校第二学年学級活動における一人一人が活躍する係活動の工夫と評価を通して、笠間市立六戸小学校 教諭 根本 典子

24 学校図書館教育 児童の読書活動の推進と目標図書館の在り方／読書に楽しんで取り組む児童の育成を目指して、錫田市立錫田小学校 教諭 海東 美貴子

25 道徳 主体的に議論し、考えを深める道徳教育の在り方／議論に適した資料を用いたティームティーチングでの指導を通して、猿島郡五霞町立五霞中学校 教諭 木村 英司

26 算数・数学 守谷市立大野小学校 教諭 鈴木 克寿 外職員一同

27 学級経営 古河市立仁連小学校 教諭 遠藤江理子

28 外国語活動・外国語 常陸市立水海道小学校 教諭 中島 周幾

29 特別支援教育 日立市立滑川小学校 教諭 野澤 羊子 外五名

30 音楽 結城郡八千代町立下館小学校 教諭 上條 弥生

31 算数・数学 錫田市立錫田小学校 教諭 中山 一恵

32 国語 常陸太田市立幸久小学校 教諭 井上一 宏

33 外国語活動・外国語 水戸市立第一中学校 教諭 蓮見 宏明

34 特別支援教育 つくば市立高山学園中学校 教諭 奥山 圭子

35 国語 猿島郡境町立森戸小学校 教諭 真中 涼子

36 学校健康教育 古河市立古河第三中学校 教諭 養護教諭 渡部 和

37 国語 日立市立水木小学校 教諭 鈴木 美帆

38 体育・保健体育 鹿嶋市立高松小学校 教諭 加藤 忍

【佳作】

1 算数・数学 守谷市立大野小学校 教諭 鈴木 克寿 外職員一同

2 学級経営 古河市立仁連小学校 教諭 遠藤江理子

3 外国語活動・外国語 常陸市立水海道小学校 教諭 中島 周幾

4 特別支援教育 日立市立滑川小学校 教諭 野澤 羊子 外五名

5 音楽 結城郡八千代町立下館小学校 教諭 上條 弥生

6 算数・数学 錫田市立錫田小学校 教諭 中山 一恵

7 国語 常陸太田市立幸久小学校 教諭 井上一 宏

8 外国語活動・外国語 水戸市立第一中学校 教諭 蓮見 宏明

9 特別支援教育 つくば市立高山学園中学校 教諭 奥山 圭子

10 国語 猿島郡境町立森戸小学校 教諭 真中 涼子

11 学校健康教育 古河市立古河第三中学校 教諭 養護教諭 渡部 和

12 国語 日立市立水木小学校 教諭 鈴木 美帆

13 体育・保健体育 鹿嶋市立高松小学校 教諭 加藤 忍

優秀賞受賞のよろこび



行方市立北浦中学校
校長 横田 英一
外全職員

この度は、このように栄誉ある賞をいただき、職員一同喜びとともに、関係する皆様へ心より感謝を申し上げます。

本校では、「学校の中心は生徒」という考え方を中核に生徒にとって「居場所づくり・絆づくり」のできる魅力ある学校づくりを推進しています。そのために、治療的予防と教育的予防を充実させ、「チーム学校」による不登校生徒を生まない指導に全校体制で取り組んでいます。その結果、本年度の全校総欠席者は過去五年間で最少を維持し、不登校生徒は二名、不登校のおそれのあると捉えた生徒のうち二十七名が昨年度欠席日数の八十%以下であること、また、生徒自身が生き方や将来の夢、学ぶ目的意識をもてるよう教育的予防を充実させることができました。これも「チーム学校」を組織するにあたり保護者、地域、関係機関の

皆様のご協力の賜と考えます。さらに職員一同研鑽に努め、栄えあるこの賞に値する実践とその継続に努めてまいりたいと存じます。誠にありがとうございました。



常陸太田市立瑞竜中学校
教諭 渡邊 護

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、感謝申し上げます。

生徒は日々読書を楽しみ生活しています。しかし、読んだ本の感想を聞くと「ストーリーがよかった」と「主人公の活躍が格好良かった」など、どの本にでも当てはまる感想が返ってきます。

そこで、本研究では、中学校第三学年の国語科において、二つの作品を読み比べ、解説書を作る活動を通して、文章の構成や展開、表現の仕方について、評価する力の育成を目指すことにしました。そのために、単元を貫いて「解説書を作る」という言語活動を設定し、授業を実践しました。

実践後、生徒に読書した本の感

想を聞くと「あの場面があったから、主人公の気持ちに共感できた。」「例えば素敵で幻想的な世界が広がった。」などの答えが返ってきました。感想の質が向上しており、研究の成果を実感しました。最後に、研究を進めるに当たりご指導くださいました校長先生をはじめ、多くの先生方に深く感謝申し上げます。

鉾田市立鉾田北中学校
校長 大原 甚一
外職員一同

この度は、優秀賞という栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

本研究は、人権感覚の習得に必要な資質・能力としての「自尊心・自己肯定感」「他尊感情・他者肯定感」「コミュニケーション能力」を高めることができる教育活動を意図的に計画し、生徒の自主的・実践的な態度を育みながら日々の学校生活を送らせることで、自分の行動に自信と誇りを抱き、人を大切にしていくことができる生徒を育成することを目指したものです。

人との関わり合いを深める活動に主体的に取り組む中で、成長していく生徒の姿を数多く発見することができ、人権教育の視点から教育活動を捉え直すことの重要性

を実感しています。結びに、本研究を進めるに当たり、ご指導ご助言をくださいました鉾田市教育委員会の先生方をはじめ多くの諸先生方に深く感謝申し上げます。

稲敷市立あずま南小学校
校長 菊地 正美
外全職員

この度は、優秀賞という栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

本校では、学校健康教育の推進を通して、心身共に健康で笑顔輝く児童の育成を目指しました。健康教育を充実させ、健康に対する意識を高め、よりよい生活習慣を定着させることで、児童の自己効力感を高めようと研究を進めてまいりました。本校で目指す自己効力感とは、何らかの課題に直面した時の「自分はできそうだ。できる」という自分に対する有能感や信頼感、期待や自信のことです。その自己効力感を高め、「やる気」を出して学習や生活ができるように、学校・家庭・地域と連携して教職員一丸となって取り組んでまいりました。

本校は、本年度で閉校となりますが、今までの健康教育を、次年度へ繋げるよう取り組んでまいりたいと思います。

結びに、本研究に当たり、ご指導いただきました稲敷市教育委員会の先生方に深く感謝申し上げます。

取手市立取手第一中学校
校長 戸部 明彦
外職員一同

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、光栄に存じます。

本研究は、これからの学校教育で育成すべき資質・能力の三つの柱を鑑みながら、本校生徒に養いたい「課題や他者に主体的に関わる」態度の育成に向けて職員が一丸となって実践したものです。課題に対して主体的に関わり、一緒に課題を解決していく時間「協同タイム」を全教科の授業の中に位置付け、生徒たちが取り組んでみたくなるような課題設定や、交流の工夫など、生徒が受け身の授業スタイルからの転換を図りました。

その結果、友達と積極的に関わって課題を解決していく姿、「分からないから教えて」と率直に尋ねる姿など生徒の学びの姿に確実に変化が見られるようになり、学力の向上にも繋がりました。結びに、本研究に当たり、ご指導いただきました多くの先生方に感謝申し上げますとともに、今後職員一丸となってさらに研究を重ねて参りたいと思います。

平成二十八年年度
県外教育事情調査報告

十月六日(木)・七日(金)

安曇野市立三郷小学校
安曇野市立三郷中学校



三郷小学校にて

県外教育事情派遣団

【団 長】

鉦田 銚田南中

【副団長】

東茨城・桂中

【団 員】

常総・大花羽小

筑西・村田小

石崎千恵子

中村喜代美

中田恵美子

菊池美和子

【団 員】

那珂・照沼小

久慈・大子中

高萩・高萩中

かすみがうら・下稲吉小

つくばみらい・伊奈中

北相馬・布川小

齋藤耶会子

三國裕一郎

坂本白百合

幸田 佳久

佐藤 信之

【調査目的】
教育研究会の研究の重点に基づき他県の教育活動の実情調査を行い、本県の教育向上と本会の発展に資する。

【訪問校選定の視点】
アクティブ・ラーニング推進への取組／学び合いの視点から

【学校訪問】
初日は、午前八時に教育プラザを貸切バスで出発し、午後一時過ぎに安曇野市立三郷中学校に到着しました。三郷中学校では、全学級の授業を公開していただいた後、井口校長先生と研究主任の正谷先生から「学び合い」導入の経緯と現在の取組について御説明いただきました。

二日目は、主体的・協働的な「学び合い」の推進を本年度の重点目標とする三郷小学校で、二年生の算数科の授業を参観させていただきました。三郷小学校は当日、長野県教育委員会の教育課程研究協議会場学校となっており、二年生の公開授業も体育館の特設会場で実施され、長野県内からも五十人余りの教員の参加がありました。

【県外教育事情調査を終えて】
訪問を御快諾いただいた安曇野市教育委員会、三郷小学校、望月弘校長先生、三郷中学校 井口真

アクティブ・ラーニング推進に向けた三郷小・中学校の取組
 鉦田市立銚田南中学校
 団長 石崎 千恵子

校長先生に深く感謝申し上げます。また、両校の教頭先生、研究主任の先生方には、御案内、資料の準備等、お忙しい中御丁寧な対応をいただきました。両校の校長先生が、児童生徒一人一人の学びの保障と先生方の指導力向上を第一に考えて学校経営に取り組んでいらっしゃる点、その結果として、学校が規律ある中にも活力に溢れていることが印象的でした。

派遣された先生方も各研究部の代表として、課題意識を持ち、授業参観や研究協議に積極的に御参加くださいました。今後の取組の参考になると確信しております。

最後に、御指導いただきました県教育研究会の役員・事務局の皆様、団員所属校の校長先生に深く感謝申し上げます。

新たな学びに関する教員の資質向上のための推進実践校訪問
 城里町立桂中学校
 副団長 中村 喜代美

アクティブ・ラーニングの視点による授業改善が求められている今日、「学び合い」を推進している安曇野市立三郷小中学校を訪問いたしました。

安曇野市立三郷中学校では、「一人残らず子どもが権利を保障する」という校長先生の強い思いを感じ取ることができました。全クラスの授業参観をしましたが、どの教科の子どもたちも授業に安心して臨み、互いに学びを深め合う姿が見られました。以前は不登校が多かったそうですが、一斉授業から脱却し、分らないことが聞ける「学び合い」を推進するようになってから不登校も減少したそうです。そして、子どもたちだけでなく研修等を通して、教職員も成長し合える学校づくりを実践していました。先生方の明るく輝く表情も印象的でした。

安曇野市立三郷小学校では、「学びを深めるためには個々の子どもが自分の考えを持っていることが前提となる」との説明どおり、二年生が自分の考えを言ったり板書したりして、主体的に学習する姿が見られました。算数の問題に対して「これを解くためには本時で何を調べればよいのか」子ども自身が学習課題を設定していることは大きな驚きでした。考えを発表するたびに「ふーん」とか「同じです」などと子どもたちの反応が返ってきています。まさに対話的な学びが成立していました。授業者の先生は、子どもの困った感やつばやきを大事にねらいの達成を見届けていました。また、指導案には「私の授業改善の課題」が記載され自己の授業改善の視点が明らかになっていました。

二校ともに未来を担う子どもと共に教師が育つ環境があることを実感した視察となりました。

安曇野市立三郷小学校

「子どもと共に創る授業とアクティブ・ラーニング」

安曇野市立三郷小学校は、全校児童九百八十人と教職員六十五人の市内最大規模の学校です。三郷小学校の教育目標「自ら学ぶ子ども・心豊かな子ども・明るくたくましい子ども」の育成を掲げ、教育活動を行っています。本年度の重点目標として、主体的・協働的な「学び合い」の推進をし、主に算数科の研究をしています。

研究テーマは「自分の考えを数学的に表現しながら主体的・協働的に学ぶ授業づくりに関する研究」計算の意味や方法を数学的な表現を用いて説明したり結果を振り返って考えたりする活動に焦点を当てて」となっています。その算数科研究の重点として、次の三点が挙げられます。

【深い学びの過程の実現】

ねらいに沿った課題解決型の追究になるように、一時間の授業を構想し、学習の流れを子どもと共に有しています。自分が学んだことを振り返る場面や一般化の問題や練習問題に取り組み場を設けていました。それにより、追究して得られた内容や解決に用いた方法・考え方を自分の力で活用すること

をねらいとしています。

【対話的な学びの過程の実現】

個人追究で考えたこと・困ったことをもとに、ペアやグループで説明し合ったり、話し合ったりする場を設けています。実際に、授業では自分の考えをペアで伝え合う場を設けていました。

【主体的な学びの過程の実現】

学習問題を読んで、思ったことや気付いたことを出し合ったり、分らないといった困り感を拾い上げたりして、子どもの言葉で学習課題を設定しています。その結果、子どもたちが、より主体的に取り組むことにつながっています。さらに、一時間の授業の流れを次のようにしています。①学習問題を知る②思ったことを出し合う③学習問題を決める④個人（グループ）で考える⑤全体で考える⑥まとめ⑦練習問題に取り組む⑧



ペアによる授業
三郷小学校にて

振り返りとなっています。日々の授業を同じ流れで実践していましたが、常に、その時間の学びの振り返りとして、ノートに書くようにしています。それにより、友達のことを聞いて自分の理解が深まったことや解決に用いた方法・考え方を高まっているようです。



安曇野市立三郷中学校

「生徒も教師も成長し合える学校」

アルプスの緑豊かな山々を望むことができる安曇野市立三郷中学校は、市内最大規模の学校で、一中学校区一小学校として教育の歴史を重ねてきました。長野県が進める「子どもと共に創る授業」の実践フィールド校として、学び合う授業スタイルへの革新に取り組んでいる学校です。「豊かな心を持ち、辛抱強く自分を鍛え、自ら学ぶ生徒になろう」の教育目標のもと、三つの重点（「学び合い」の推進）「いじめの撲滅」「部活動の充実」の具現化に向けて、全職員が一丸となって取り組んでいます。

【コミュニケーション力の育成と学力向上】

昨年度から佐藤学先生が提唱する「協同的な学び」の「学び合い」学習を実践し、全学級がコの字型の教室配置と四人グループによる「協同的な学び」を行っています。生徒全員の学びを保障し、いつでも聴き合える関係性の構築をめざす授業では、生き生きとした表情で発言したり、発言者の内容に反応して聴き手の意志を伝えたりする姿が見られました。授業では、前半は「共通の課題（基礎）」を、後半では「ジャンプの課題（発展）」を設定し、子供の主体的な学びを促すような授業が展開されていました。これまでに、四月の全校学習オリエンテーションで、一人ひとりが安心して授業に参加できるように「学びのルール」を確認しています。五月には、校内授業公開を行い、授業の共通理解を図るなど、主体的な職員の学び合いも活発です。

【自ら鍛える生徒】

自ら鍛える生徒像には、「礼を尽くす・場を清める・時を守る・靴そろえ・部活動の充実・体力の向上」が挙げられています。中でも「時間前清掃」に驚きました。「黙想してください。」の校内放送とともに、あちこちで生徒がその場で腰をおろして黙想を始めました。

心を落ち着かせてから清掃活動が始められ、まさに場を清める光景でした。

【地域に学び、地域と共に生きる学校】

代表的な地域学習の一つとして、地区生徒会を中心に全校が縦割りや地域を体験的に学ぶ学習や、伝統的な活動になっている一年生によるりんごの摘果作業があります。なかでも、九年間を通じた総合的な学習の時間の取組にも力を入れています。また、九年間を通して「協同的な学び」の実践にも力を入れています。具体的には、小・中学校合同の職員研修会を設けたり、外国語や道徳の授業において、両校の職員が互いに向いて授業を行ったりしています。このように、地域とのつながりを大切にした体験的学習に取り組んでいる特色ある学校です。



コの字型の授業
三郷中学校にて

県外教育事情調査に参加して

常総市立天花羽小学校

中田 恵美子

三郷小学校では、児童の疑問やつばやき、気付きを板書しながら授業を進め、児童が課題を解決していることを実感できる「主体的な学び」を展開していました。互いの意見を認め合う「協働的な学び」の経験は、学習の定着や理解を深めるだけでなく、人間関係を構築することにも繋がるものだと感じました。このような児童の意欲的な姿勢が生まれたのも、アクティブに学ぶ子供の姿を目指した職員一人一人の研究への熱意と全職員一丸となった協働体制の賜物だと実感しました。

筑西市立村田小学校

菊池 実和子

安曇野市立三郷小学校、三郷中学校では、「学び合い」や「アクティブ・ラーニング」の推進に力を入れていました。その中で特に印象深かったのは、教師自身の個の授業改善の課題を設定し、その課題をもとに研究を進めていたことです。参観した授業では個の課題を「子どもたちのことばで進んでいくような授業づくり」とし、児童のつばやきや、児童同士の会話から授業を展開していて、感銘

を受けました。教師自身が課題をもって授業に臨むことの大切さを実感しました。

東海村立照沼小学校

菊池 のり子

教室に入り、まず驚いたのは、木曾の檜で作られた木目が美しい机と椅子です。訪れた二つの学校はともに大規模校で、校舎内外の隅々まで手が行き届き、教育環境が整った学校でした。教師と児童、児童同士の対話を大切にした授業が展開されるなど、両校ともに主体的で協働的な「学び合い」の学習が行われていました。授業づくりにおいては、常に「子供はどのように学ぶか」という視座があり、教師が一丸となって授業改善に取り組むことの大切さを改めて確認できました。

大子町立大子中学校

齋藤 耶会子

三郷中学校では、「協働的な学び」の「学び合い」学習を行っています。教室配置を全学級で、コの字型にし、グループ学習の充実を図っていました。グループ学習により、一人ではないという安心感から授業を楽しく感じる生徒が多くなったとのこと。自分の意見を伝えたり相手の意見を聞いたりすることでコミュニケーション

ン能力の育成にもつながるといことがわかりました。

教室配置だけでなく、職員研修を通して小中の連携も密に行っています。生徒がよりよい環境で学べるように教職員全体で取り組んでいることに感銘を受けました。

高萩市立高萩中学校

三國 裕一郎

三郷中学校では、「生徒全員の学びを保障する」という目的のもと、常時コの字型で授業を展開しグループ活動の際は四人グループを推進している。私が参観した社会科の授業では、公民分野で自由権についての授業だったのだが、自由権を掘り下げる展開ではなく教師は「死刑の是非」を学習課題に設定し、教師の用意した資料や友達の意見を参考に、生徒は生き生きと課題解決を図っていた。このように当たり前のことだが、教材研究こそがアクティブ・ラーニングの土台であると再確認した。

かすみがうら市立下稲吉小学校

高橋 一夫

安曇野市立三郷中学校では、学ぶ権利を保障し、どの子も学びに参加することを願い、「協働的な学び・学び合い」学習が実践され全教室全教科・コ字型四人グループで基礎と発展の課題学習形態が徹

底されていた。「黙働」の伝統を守り、清掃が行われていたのも印象的だった。同三郷小学校では、「子どもたちのことばで進んでいく授業づくり」を課題とし、授業改善に取り組む、生き生きと取り組む二年生の姿があった。伝統の上に新しい教育の在り方を着実に実践している「長野の教育」を体験した研修であった。

つくばみらい市立伊奈中学校

坂本 白百合

「子どもとともに創る授業」という理念のもと、児童生徒がどのように学ぶかという視点から授業づくりに取り組んでいました。

三郷中学校では、年間を通して全学級をコの字型に配置するとともに、男女混合グループによる協働的な学びを行っているとのことでした。授業では、教師は個別の支援やつなぎ方を教える役割で、生徒に自分の意見や考えを発言する機会を多く設けていました。

校内研修の充実を図り、職員全員で取り組むことの意義深さを改めて実感することができました。

阿見町立本郷小学校

幸田 佳久

主体的・協働的な「学び合い」の推進をしている安曇野市立三郷小学校と安曇野市立三郷中学校の

授業を参観しました。今回、特に印象に残ったのは、三郷小学校での学習課題の設定についての考え方でした。主体的な学びを実現するために、前時までの学習との違いや共通点を子どもをつばやきから明確にし、学習課題を子どもの言葉で設定していました。それにより、主体的に学ぶ子どもの姿が見られました。改めて、「学び合い」学習における学習課題の重要性を再確認できた貴重な学びの場となりました。

利根町立布川小学校

佐藤 信之

安曇野市立三郷中学校は、地域に学び、地域と共に生きる学校を目指しています。授業では、協働的な「学び合い」を推進しています。毎回四人のグループで、課題を解決していて、熱心に話し合う姿が印象的でした。

安曇野市立三郷小学校では、アクティブ・ラーニングを視点とした算数科の授業改善を重点に置いた二年生の算数の授業を参観しました。一人ひとりのつばやきを大切にしながら展開していました。キーワードを児童が、示してまとめをしていました。今後の授業に、役立てたいと思いました。

視 点

「カリキュラムマネジメント」の研究と、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

『アクティブ・ラーニング』の視点を取り入れた授業改善

那珂市立第二中学校
校長 川又 暢

本校は不登校生徒の出現率が高い。その改善策として「学び合い」を核に、生徒指導の三機能を常に考慮した学習活動を組み立て、教育実践を積み重ねてきた。しかし、一定の成果が得られる一方、学力の二極化や低位層の固定化の解消が課題である。そこで、学習意欲とともに自分の考えをわかり易く伝えたり、グループで話し合いを深めたりする実践が必要と捉えた。そのため、本年度はアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた次のような授業改善を実践した。

(一)各教科・領域における生徒同

士の「学び合い」を中核とした授業の展開

(二)そのための教師の指導の在り方を模索し、本校としての授業の方向性の追究

一 具体的な取組として

(一)県教育研修センター指導主事による校内研修支援訪問要請
(二)全員の授業実践及びA.Lの捉え方並びにその方向性の確認
(三)特別の教科、道徳に対応した授業づくりの研修

二 主な成果として

A.Lを各教科・領域で求める生徒の姿として捉え直したことで、目標と手立てがより明確になり、課題設定や授業形態の工夫等、従前の授業を見直す好機となった。

授業アンケートの結果から「自ら積極的に学ぶ生徒」の割合が二ポイント上昇する等、授業改善の成果は徐々に見られつつある。今後も本実践を継続し、さらなる授業の質的改善を目指したい。

基礎・基本の確かな定着と自ら学ぶ生徒の育成

常陸太田市立世矢中学校
校長 飯田 広志

生徒と教師、生徒間の豊かな人間関係のもとで相互に意思疎通を図りつつ、アクティブ・ラーニングの視点を生かした主体的に課題を発見しそれを解決していく協

働的な学習の研究に取り組んできた。

一 主な取組

「時を守り場を淨め誠を尽くす」を行動指針とし、学習・生活両面を支える基盤とした。

(一)三つの視点を生かした世矢中

授業モデルの推進
○生徒が学びたい、学ぶ必要性を感じる事ができるような課題設定・提示の工夫

○授業の中で他者とかかわりながら協働で学習する場の設定の工夫

○学習したことや身に付いたことを振り返り、まとめる時間の確保

(二)心の教育の推進
○各教科との連携を意識した学級活動・道徳教育の推進

○生徒会組織の充実と幼・小・中連携事業の推進

○学校行事の充実

○縦割り班活動の工夫・充実

(三)将来を真剣に考え、夢や希望をもち自ら学ぶ生徒の育成

○今と将来の自分をつなぐキャリア教育の充実

○自己有用感の高揚と他者を受け入れる態度を育成する学級経営の充実

○夢育の充実

二 主な成果

(一)「世矢中授業モデル」を推進

し授業改善することで、学習に主体的に取り組む生徒が増えた。特に、対話的、協働的な学習を通して生徒の学びが深まった。

(二)夢を実現するための準備や家庭学習に対する考え方に変化が見られ、自ら学ぼうとする生徒が育ってきた。

(三)アクティブ・ラーニングを意識した授業実践と研究に取り組むことにより、教師の指導力が向上してきた。

豊かな心と確かな学力を身に付けた児童の育成を目指して

行方市立麻生東小学校
校長 生井沢忠夫

意図的計画的な好ましい人間関係づくりと、授業力向上ブラッシュアップ研修を生かした授業改善を通して、児童の豊かな心と確かな学力の育成に取り組んだ。

一 主な取組

(一)豊かな心の育成のために
○Q.U.Tテストの実施(年二回)
○発達段階に応じたグループプロジェクトや、アサーショントレーニング等の実践

○スクールカウンセラーや特別支援教育専門家派遣事業の活用

○保護者同士の人間関係づくり(ワールド・カフェの実施)

(二)確かな学力の育成のために
○学習の見直しをもたせる工夫
(一)時間の学習の流れや単元の学習計画の掲示

○導入や交流活動の工夫(ICTの活用や話し合いの視点的提示、マニュアルの活用)

○まとめや振り返りの工夫(児童の思考を伴うまとめや振り返りカードの活用)

二 主な成果

(一)Q.U.Tテストを生かした児童理解と指導の改善や、課題のある児童の全職員での共通理解と実践、発達障害が疑われる児童への適切な対応についての研修などにより、いじめの認知件数の低下や不登校児童の発生を防止することができた。

(二)授業力向上ブラッシュアップ研修を生かして授業改善を行い東小スタイルが徹底された。また「授業がよくわかる。」と答えた児童が大幅に増えた。さらに、まとめや振り返りの工夫により、根拠を明確にして書くこととする意識の向上や、書くことに関する抵抗感の減少などが見られた。

三 今後の課題

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

外部の教育資源の活用と、主体的対話的で深い学びを目指した授業改善の一層の推進を図る。

未来に向かい、たくましく 生きる児童生徒の育成

つくば市立吾妻学園中学校

校長 古澤 武司

本校は、小学校併設型中学校として、吾妻小学校と一小一中の中間一貫教育を平成十九年度より推進している。二十七年には、つくば市教育委員会から二年間の研究指定を受け、九年間を見通したカリキュラムマネジメントによる学力向上に取り組んだ。

一 研究のねらい

「次世代型 A Z U M A プラン」を活用した言語力・協働力を高めるための授業改善を通して、他者と協力して課題解決に取り組み、新たな考えを発信することができ、児童生徒を育成する小中一貫教育の在り方を追究する。

二 研究の実際

(一)学び続ける力部会

①各教科で発達区分における目指す子供の姿の設定と共有

②「言語力・協働力スキル表」

の提示と活用

③授業を見合う週間、研究授業、教科部会の充実

(二)感じる力部会

① A Z U M A フォーラム (いじめ撲滅) の開催 (三回)

②筑波大生とのピアサポート

③イメージキャラクター作成

(三)なしとげる力部会

①小中合同の委員会活動
②さわやか活動 (学習サポート) の推進

三 研究の成果

(一)教科・領域における横断的なカリキュラムマネジメントを具現化することができた。

(二)アクティブ・ラーニングの視点からの言語力・協働力の育成を目指す授業改善を確立することができた。

(三)児童生徒の授業に関する自己評価や自己肯定感の高まりを認めることができた。

(四)小中一貫教育の有効性を保護者や地域に発信することができた。

ユニバーサルデザインを生かした、主体的・協働的に学ぶ児童の育成を目指した取組

利根町立文間小学校

校長 浅野 恵次

ユニバーサルデザインを意識した課題の提示やアクティブ・ラーニングを意識し、児童が主体的に学び自らの学びを表現できるようにするため、校内研修の充実を図り、教職員の指導力向上に取り組んだ。

一 主な取組

(一)UDを意識した分かる授業の展開する。

・明確化された課題の提示
・教材・教具の効果的な活用 (具体物や半具体物、実演、デジタル教科書や実物投影機等の ICT 機器等)
・スモールステップによる理解度の確認と定着の向上

(二)主体的・協働的な学びへの手立てを工夫する。

・児童にとって「魅力的な」課題の設定する。「自分のこととして学ぶ動機付けができるように工夫する。」

・言語活動の充実を図る。(話型や言葉カードを活用して表現力の向上を目指す。)

(三)家庭学習を学校での学習とリンクさせ、必要性を持たせる。

・保護者向けに家庭学習の内容を示した「学習のススメ」や「学習のスキル」を配付。(懇談会等で保護者への意識改革を図る。)

・児童に「家庭学習の手引き」や「家庭学習カード」で家庭学習の定着を図る。

二 主な成果

(一)学習目標に対する本校の課題に対する改善の方策と実践を通じた研修の検証をすることにより、授業の改善と教職員の指導力向上が図られた。

(二)教職員自身が研修の成果を実感できたことにより次年度への研修意欲も高まった。

(三)児童が家庭で学習してきたことを学校で活用できるようになり、学習への主体性が高められた。

感できたことにより次年度への研修意欲も高まった。

アクティブ・ラーニングと運動させたカリキュラム・マネジメントと授業改善

坂東市立七重小学校

校長 内野 宗長

教育目標を実現するためには、教育課程を編成し、実施・評価・改善を充実させていくカリキュラム・マネジメントが必要です。

アクティブ・ラーニングは、質の高い深い学びを行う話し合いな理由を示してすらすらと伝え合えた。」など心がはずむような経験を重ねることが大切です。

アクティブ・ラーニングの授業を通して、子供たちが生涯にわたって人生を楽しむ、互いに尊重し合える社会をつくることを目指します。それらの資質・能力を育む視点と運動させたカリキュラム・マネジメントが重要になります。

授業改善は、教師が「もっと子供が主役の授業をしたい。」という意識をもつことが必要です。そのためには次の三つのことが柱と

なります。

(一)主体的な学びにするために、子供が課題を見つけ、解決に向けた学習計画を立てます。

(二)協働的な学びにするために、話し合いの前に子供が自分の考えをもてるようにします。

そのために、学習問題を既習の知識を使い自力解決できるように、教師は子供の立場で解法と答えを用意します。

(三)グループやクラスの協働的な学び合いでは、それぞれの考えをもち寄った話し合いを通してその和を越える成果が生まれるようにします。互いに、「その考えいいね。」と認め合うことで絆も深まります。

書く力や話す力を育てると効果的・効率的に学習が早く進みます。

教師は、子供が気付かない考えのよさや何をどのように学び、できるようなったかを褒めて、生活や他教科で使う汎用性を確認することで学ぶ意欲を育てます。

本校では、さらに児童司会を取り入れて、自分たちで授業をつくり上げる雰囲気や自主的で積極的な態度を育てています。



小学校指導方法等研修会の授業風景
(水戸市立止大野小学校)

研究部

本年度のあゆみ

平成28年度・研究目標 ・活動と反省

重点研究部

教育課程
子どもの自主性・自立性を育む
社会に開かれた教育課程の編成
部長 木村 明弘

算数・数学
自らに問いかけ粘り強く考え
る力を育成する指導と評価
部長 深見 晋

理科
科学する面白さを感じながら、
身の回りの事象とかかわって
く子供の育成
部長 陶 慶一

音楽
共に感じ 共に楽しみながら
心むすぶ音楽を求めて
部長 仁平 良治

一 郡市部長協議会及び研修会

五月二六日(木) 教育プラザ

平成十五年から十三年間、およそ「創意ある教育課程の編成・実施と評価・改善」の研究主題のもと研究を深めてきた。今年度は、次期学習指導要領に向けた論点整理等の内容やいばらき教育プランの基本テーマの趣旨を生かす観点から、協議を重ね、研究主題を標記のように改変した。

二 教育課程研究部研修会

十月二六日(水) 教育プラザ

茨城県教育庁学校教育部義務教育課長の森作宜民先生を講師に迎え、演題を本研究部の研究主題に関連させながら、「教務主任に期待すること」と題して、講演をお願いした。

その後、講演内容を中心課題において研究協議を行った。六、七名の小グループに分かれ、研究協議資料として持ち寄ったワンペーパーをもとに、各学校の特色ある教育活動等の情報交換を行った。今後とも引き続き、各市町村の教育研究会や近隣学校との連携を図りながら、研究主題の究明に向けた取組を行っていく。

一 研究協議会並びに研修会

(一) 第一回 五月二十七日(金)

○事業計画及びテーマの検討

(二) 第二回 九月八日(木)

○ブロック別研究協議

○講話 県教育研修センター

○講話 教科教育課

主査 竹内 修先生

(三) 第三回 二月二十四日(金)

○事業報告、次年度の事業計画

○講話 県教育庁義務教育課

指導主事 小林 栄司先生

二 学習指導法研究協議会

(一) 前期 六月十五日(水)

○公開授業

水戸市立河和田小学校

水戸市立赤塚中学校

○研究発表

○講演 宇都宮大学

教授 日野 圭子先生

(二) 後期 十一月九日(水)

○公開授業

かすみがうら市立下稲吉東小学校

かすみがうら市立千代田中学校

○研究発表・研究協議

○講演 筑波大学

教授 蒔苗 直道先生

三 五ブロック別指導法研修会

○研究発表・研究協議

一 地区別実験実技研修会

県南・県西地区

二 科学教育研修会

中央・県北・県東地区

三 茨城県児童生徒科学研究作品展

(一) 地区展

○期日 十月一日～九日

○会場 県内五会場

(二) 県展

○期日 十月二十日～二十三日

○会場 茨城県自然博物館場

四 茨城県発明工夫作品展

(一) 地区展

科学研究作品展と同時開催

(二) 県展

○期日 十一月三日～六日

○会場 茨城県総合福祉会館

五 研修会

(一) 文部科学省講演会

○期日 八月二十四日

○会場 ひたちなか市文化会館

(二) 小学校指導方法等研修会

○期日 六月六日・七月五日・八月八日

○会場 教育プラザいばらき

○授業研究会 計十二回

(三) いばらき理科アイテムを活用した授業実践(中学校)

○各郡市単位で実施

【本年度の主な事業】

一 郡市部長研修会 5/24 2/21

二 研究推進委員会 6/28 2/21

三 研究協議会

(一) 北茨城市立磯原中学校 10/21

(二) 行方市立玉造小学校 10/21

(三) 石岡市立南小学校 11/25 6/15

(四) 東海村立東海南中学校 11/29 11/29

(五) 結城市立結城南中学校 11/29 11/29

結城小学校・上山川小学校

四 実技研修会・指導法研修会

(一) 歌唱指導法研修会 6/30

会場 小美玉市四季文化館

(二) 器楽実技研修会 8/17

会場 茨城大教育学部附属小

五 茨城県芸術祭小中学校合唱合奏大会(教育庁文化課主管)

(一) 打合会(研修センター)

(二) 中学校の部 11/22 11/21 10/12

(三) 小学校の部

会場 県民文化センター

六 茨城県リコーダーコンテスト

フェスティバル 2/10

会場 市民ホールとよさと

七 研究紀要のWEB掲載

体育・育体
「できる、分かる、かかわる」
を保證する体育学習

部長 永田 博

本年度は、次の事業を実施した。

一 第一回郡市部長研修会

(一) 期日 五月二十六日(木)

(二) 会場 教育プラザいばらき

(三) 内容

○組織づくり・事業計画

○来年度の実技研修会・授業研究会の担当地区の確認

○研修会

・講師

県教育庁学校教育部

保健体育課

指導主事 塚田 勝之先生

・講話内容

「子どもの体力向上を図るための指導者の役割」

「本県小中学生の体力の現状と授業改善の在り方」

二 関フ口群馬大会視察

(中体連との共催)

(一) 期日 十月二十一日(金)

(二) 会場 高崎市文化会館

(三) 大会テーマ

主体的に運動に取り組み健康の保持・増進や体力の向上を図り、生涯にわたって明るく豊かな生活を営む態度を身に付けた生徒の育成

家庭・家庭技術
・家族の関わりを大切にし、生活における自立の力を培う(家庭科の在り方)(小学校・生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育)(中学校)

部長 磯崎 則男

平成三十一年度(本年度)に中学校家庭科、平成三十二年(本年度)に小学校家庭科関係大会が予定されており、それぞれの大会に向けて研究を推進してきた。

一 郡市部長研修会

六・二月

二 研究推進委員会

六・八・二月

三 授業研究会

水戸市立稲荷第二小学校

つくば市立谷和原中学校

下妻市立千代川中学校

石岡市立府中中学校

四 いばらきものづくり教育フェア

○アイディアバックコンテスト

水戸市立第二中学校

○木工チャレンジコンテスト

水戸市立第二中学校

○おべんとうコンクール

常陸太田市立峰山中学校

○アイディアロボットコンテスト

つくば市立谷田部東中学校

○いばらきロボットコンテスト

鉾田市立鉾田北小学校

○児童生徒作品コンクール

イオンモール土浦

五 関フ口埼玉大会提案発表

○技術科提案「情報に関する技術」(県西地区)

六 全国中学生創造ものづくり教育フェア参加

育フェア参加

英語
コミュニケーションへの意欲と能力を高め、思いや考えを豊かに伝える力の育成

部長 皆川 澄雄

本年度より、新たな研究テーマにより研究を推進した。副題は「小・中学校の英語教育の滑らかな接続により、主体的な学びを育てる」

◎主な事業

一 郡市部長、専門委員(小学校・中学校)合同研修会

(一) 五月二十五日(水)

(二) 五月二十五日(水)

事業報告・来年度事業計画案

二 各ブロック事務局長及び研究推進委員長合同研修会

八月八日(月)

三 英語インタラクティブフォーラム各都市・各地区・県大会

・県大会 八月二十三日(火)

筑波学院大学(つくば市)

四 各ブロック授業研究会

第六十八回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会茨城県大会

・期日 十月七日(金)

ホテルレイクビュー水戸

参加生徒 七十六名

六 第四十回関東甲信地区中学校英語教育協議会神奈川大会

・期日 十一月十八日(金)

川崎市総合福祉センター

発表者 小美玉市立玉里中学校

教諭 八木 千鶴先生

七 研究紀要作成

研究部ホームページに掲載

道徳
自立した人間として、他者と共によりよく生きようとする児童・生徒を育てる道徳教育

部長 増田 年男

一 第一回郡市部長研究協議会

五月二十七日(金)

二 郡市部長研究協議会並びに研究推進委員会合同研修会

七月二十六日(火)

七月二十六日(火)

九月二十一日(水)

十二月七日(水)

一月十八日(水)

三 第六回郡市部長研究協議会

二月二十二日(水)

四 関フ口小道東京大会

十一月十八日(金)

町田市立町田第一小学校

発表者 佐川有紀子教諭

(上大野小)

五 関フ口中道神奈川大会

十一月十一日(金)

相模原市立上溝南中学校

発表者 庄司貞夫教諭(旭中)

司会者 遠藤 芳輝教諭

(波崎三中)

六 各研修会への参加

「全小道夏季中央研修講座(東京)」

「全中道道徳教育推進教師育成講座(東京)」

県内 教諭等が参加した。

※平成二十九年(本年度)関小道茨城大会公開授業校の市毛小学校では、研究授業公開や校内研修を進めてきた。

特別活動
集団や社会の一員として、よりよい人間関係を築く力を育てる特別活動の在り方

部長 大高 美子

一 郡市部長研修会(年三回)

○第一回 五月二十七日

研究主題設定・組織づくり等

○第二回 八月四日

講話「話し合い活動の指導と評価」

講師 桜川市立羽黒小学校

教頭 田部井悦子先生

○第三回 二月十五日

次年度の研究主題設定等

二 研究推進委員会(年三回)

県東ブロック中心に研究協議会の開催に向けて

三 研究協議会 十一月十一日

○会場 行方市立玉造小学校

○授業公開

二年一組・四年一組・五年一組

○研究発表

・小学校低学年部会

・小学校中学年部会

・小学校高学年部会

・那珂市立横堀小学校

・八千代町立中結城小学校

・中学校部会

・高崎市立秋山中学校

○全体会

講師 茨城県鹿行教育事務所

学校教育課長

大崎一寿先生

情報教育
学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身につけるためのICTの活用
部長 大芝 静香

学級経営
一人一人が輝く学級経営
部長 大高 正志

キャリア教育
社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の在り方
部長 井坂 健一

人権教育
人権尊重の精神の涵養を旨とする人権教育の推進
部長 石井 誠二

その他
生きてはたらく国語の力をはぐくむ授業の創造
部長 吉井 由隆

一 情報教育関連事業

○ 郡市部長研究協議会

五月二十日 教育プラザ

○ 研究推進委員研修会

八月一日 教育プラザ

○ 県情報教育研究部並びに県視

聴覚教育振興会合同研修会

十一月二十五日教育プラザ

二 統計教育関連事業

○ 統計グラフ指導者講習会

六月十七日 県庁

○ 統計グラフコンクール実施説

明会 六月九日 県庁

○ 統計グラフコンクール地区審

査会 九月上旬 県内五地区

○ 統計グラフコンクール県審査

会 九月二十日 県庁

○ 全国並びに県統計グラフコン

クール表彰式

一月十八日 県庁

三 放送教育関連事業

○ NHK 杯中学校放送コンテス

ト茨城大会 六月十九日

NHK 水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

○ 県情報教育研究部並びに県視

聴覚教育振興会合同研修会

十一月二十五日 教育プラザ

○ 自作視聴覚教材等発表会

二月二十六日 水戸生涯学

習センター

本年度は、次の事業を実施した。

一 第一回郡市部長研修会

(一) 期日 五月二十五日(水)

(二) 会場 教育プラザいばらき

(三) 内容 本年度の組織づくり及

び事業計画

二 郡市部長・研究推進委員合同

研修会

(一) 期日 七月七日(木)

(二) 会場 教育プラザいばらき

(三) 講師 茨城県水戸教育事務所

学校教育課

課長 築瀬 浩幸先生

(四) 内容 『あらためて振り返る

「学級経営」～今、求めら

れるマネジメントとは～』

三 ブロック別研修会

○ 県内五ブロックによる研修会

の実施(七～九月)

四 学級経営研究部研究発表会

(一) 期日 十一月二十四日(木)

(二) 会場 教育プラザいばらき

(三) 内容 ブロック代表一名発表

(四) 指導講師

茨城県水戸教育事務所主任

指導主事兼生徒指導班長

岡崎 光也先生

五 学級経営研究紀要の刊行

六 第二回郡市部長研修会

(一) 期日 二月二十八日(火)

(二) 会場 教育プラザいばらき

「小学校からの発達の段階に

じた体系的な基礎的・汎用的能力

の育成を通して」をサブテーマと

して、目的の達成を図るため以下

の事業により研究を推進した。

一 「第四十二回関東甲信越地区

中学校進路指導研究協議会茨城

大会」の開催

十一月四日(金)に「社会

的・職業的自立に向けたキャリ

ア教育の在り方」を大会主題と

して開催した。

公開授業では、白鳥学園 那

珂市立瓜連小学校・瓜連中学校

が、「郷土を愛し、夢や希望を

もち、自ら学びたくましく生

き抜く児童生徒の育成」を研究

主題として実践の成果を発表し

た。

分科会では、基礎的・汎用的

能力を身に付けるための実践的

な進路指導・キャリア教育につ

いて、熱心な提案発表や協議が

行われた。

二 県版「中学生活と進路」の編集

茨城県版の最新データに更新

した指導資料集を作成した。

三 調査研究の実施

県立高校・私立高校入学者の

選抜に係る調査を行いまとめ

た。

人権教育推進のため、本年度

は、左記の事業を実施した。

一 郡市部長会・研修会

(一) 郡市部長会・研修会

○ 第一回 五月二十六日(木)

・ 研究主題・組織・研修計画

・ 研究協議会について

・ 講話 演題「障害者差別解消

法について」

講師 大阪経法大学

一木 玲子 先生

○ 第二回 二月十五日(水)

・ 事業報告・成果と課題

・ 平成二十九年度研修計画

・ 講話 演題「人権教育の推進」

講師 県人権教育室指導主事

中村 竜雄 先生

(二) 各郡市部研修会

二 リーフレット「こんな学校で

ありたいⅢ」作成

(一) 配付予定日 二月十五日(水)

(二) 配付予定 各小・中学校、

教育委員会等

(三) リーフレットは、県教育研究

会の Web ページからもダウ

ンロードできます。

積極的な活用を願います。

四 県小中学校美術展覧会の運営

(県鹿行教育事務所指導主事)

○ 会期 十一月二十五日(金)

○ 会場 県民文化センター

本年度は、次の事業を実施し

一 郡市部長研修会

○ 期日 五月二十六日(木)

○ 会場 教育プラザいばらき

○ 講話「国語科教育の現状と課

題」

講師 県教育庁学校教育部義務

教育課指導主事

大越 茂先生

二 手作りリテスト研修会並びに国

語指導者筑波研修会

○ 期日 七月二十九日(金)

○ 会場 つくば市ホテル青木屋

○ 講話 「これからの国語科授

業習づくり」

講師 文科省初等中等教育局教

科調査官

水戸部 修治先生

三 関中国東大会への参加

○ 期日 十月二十一日(金)

○ 提案 五十野 猛先生(麻生中)

○ 司会 野村 仁先生(茨大附小)

○ 助言 秋元 道恵先生

(県鹿行教育事務所指導主事)

○ 会期 十一月二十五日(金)

○ 会場 県民文化センター

社会

「かわり」を深め、未来を創る力をはぐくむ社会科学学習

部長 大和田 栄

本年度は、次の事業を実施した。

一 郡市部長研修会

- (一) 第一回 五月二十五日(水)
・平成二十七年事業報告及び決算報告
・平成二十八年事業計画案及び予算案審議

(二) 第二回 二月二十四日(金)

- ・平成二十八年事業計画案及び予算案審議
・平成二十九年事業計画案及び予算案審議

二 各種研究大会への参加

- (一) 全小社名古屋大会
十月二十日・二十一日
提案・司会・指導助言

下妻市立下妻小

教諭 稲葉 正勝先生

司会

常総市立水海道西中

教頭 田崎 諭先生

指導助言

結城市立城南小

校長 根本 忠継先生

生活・総合
生活科・総合的な学習の時間の幼小・中連携を深める授業づくり
部長 内田 和子

一 郡市部長研修会及び役員会

- 五月二十日(金) 教育プラザ 役員研修会 教育プラザ
七月二十七日(水) 二月八日(水) 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会埼玉大会(越谷市)への参加

【期 日】十月二十八日(金)

【提案者】土浦市立藤沢小・斗利出小・山の荘小

【司会者】土浦市立斗利出小 校長 古川郁子先生

【助言者】県南教育事務所 指導主事 村松静先生

※視点「協同」

四 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会青森大会への参加

【期 日】十一月四日・五日

【提案者】古河市立下辺見小 教諭 伊藤裕子先生

【司会者】古河市立仁連小 校長 倉持達哉先生

【助言者】古河市立総和北中 校長 森田泰司先生

※視点「体験」

【期 日】十一月二十八日(金)

【提案者】土浦市立藤沢小・斗利出小・山の荘小

【司会者】土浦市立斗利出小 校長 古川郁子先生

【助言者】県南教育事務所 指導主事 村松静先生

芸術・図画工作
感性を豊かにし、創造する力を育む、図画工作・美術教育の在り方
部長 堀江 俊夫

本年度は、研究主題のもと次の事業を実施し、研修を推進した。

一 郡市部長会・研修会

- (一) 会場期日 近美 五月二十七日
(二) 研修／講師 研修センター

二 研修／講師 研修センター

- 指導主事 印南 千明先生
二 夏季実技研修会
(一) 会場期日 茨大附属小 八月十日
(二) 講師 お茶の水女子大附属中 副校長 小泉 薫先生

三 研究調査委員会

- (一) 会場期日 茨大附属小 第一回 八月十日 第二回 二月十六日
第五十回県図工・美術教育研究

四 第五十回県図工・美術教育研究

五 第五十六回関ブ口造形教育研究

六 県芸術祭小中学校美術展覧会

七 部報第四十六号のWeb掲載

八 県芸術祭小中学校美術展覧会

九 県芸術祭小中学校美術展覧会

十 県芸術祭小中学校美術展覧会

十一 県芸術祭小中学校美術展覧会

十二 県芸術祭小中学校美術展覧会

十三 県芸術祭小中学校美術展覧会

十四 県芸術祭小中学校美術展覧会

十五 県芸術祭小中学校美術展覧会

十六 県芸術祭小中学校美術展覧会

校 校 確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ学校
学 図 図 図書館・学習センター・情報センター・読書
書 書 館 センター機能のさらなる充実を目指して
部 部 長 添 田 智

本年度は、研究主題のもと左記の事業を実施した。

一 郡市部長研修会

- 第一回 五月二十四日
○ 第二回 二月八日

二 第五十四回茨城県小・中学校読書感想文コンクールの実施

三 進路実態調査

- 中央審査 十月四日、十二日
いばらき読書フェスティバル
二〇一六への参加、第五十四回茨城県小・中学校読書感想文コンクール表彰式 十一月六日

四 第三十回茨城県読書感想文コンクールの実施

五 第四十回冬休み子ども読書感想文・絵手紙コンクール後援、審査会 二月二十一日

六 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

七 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

八 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

九 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十一 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十二 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十三 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十四 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十五 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十六 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十七 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

十八 平成二十九年第三十四回関ブ口学校図書館研究大会群馬大会分科会発表者推薦

特別支援
一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方をめざした教育活動の推進
部 部 長 谷 田 部 孝 子

本年度は、この研究主題のもと次の事業を実施しながら研究・研修を推進した。

一 郡市部長研修会

- (一) 五月十九日(木)
(二) 二月二十三日(木)

二 特別支援学級担当者研修会

知的障害教育研究会、自閉症・情緒障害教育研究会、難聴・言語障害教育研究会で、

全県または、五つのブロックで研修会を実施し、担当者の資質能力の向上を図った。

三 進路実態調査

四 ナイスハートふれあいフェスティバルへの参加

五 「いばら四十九号」の発刊

進路実態調査を実施し、冊子を配付して、進路についての情報を共有した。

六 ナイスハートふれあいフェスティバルへの参加

七 十二月九日～十二日

八 会場 県民文化センター

九 学習発表会及び美術展に参加し、日頃の学習の成果を発表した。

十 「いばら四十九号」の発刊

生徒指導
携帯電話・インターネット利用に関する課題への対応
校 校 長 日 下 部 秀 雄

本年度の研究主題に基づき、以下の事業を実施した。

一 第一回郡市部長研修会

- 期日 五月十九日(木)
○ 会場 教育プラザいばらき

二 内容

・組織づくり・事業計画

・講演 「子どもとインターネットを考

える子どもたちの未来と命を守るために」

・講師 茨城県メディア指導員

多田 厚史 様

三 第二回郡市部長研修会

- 期日 一月二十七日(金)
○ 会場 教育プラザいばらき
○ 内容 ・演題

「本県における生徒指導の現状と課題」

・講師

茨城県水戸教育事務所

主任指導主事兼生徒指導班長

岡崎 光也 先生

・反省と次年度の準備

学校事務
活力ある学校づくりを支える
学校事務の在り方

部長 和田 雅彦

本年度の研究主題に基づき、以下の事業を実施した。また、次年度開催の「茨城県学校事務研究協議会」の準備を行った。

一 郡市部長会・研修会

(一) 第一回郡市部長研修会

期日 六月二日(木)

場所 教育プラザいばらき

・研究主題

・事業計画など

(二) 第二回郡市部長研修会

重点以外のため開催予定なし

二 県北ブロック運営委員会等

(一) 県北ブロック運営委員会

・第一回 六月二日

・第二回 九月二十日

・第三回 一月十七日

(二) 研究推進委員研修会

・七月十四日

(三) 研究実践委員研修会

・第一回 十月十八日

・第二回 十一月二十二日

・第三回 一月六日

・第四回 二月八日

三 「学校事務研究部のあゆみ」 作成：各校へメール配信

成：各校へメール配信

学校健康
主体的に生きるための学校
健康教育の在り方

部長 雨海 祐彦

本年度は、次の事業を実施した。

一 第一回郡市部長研修会

五月二十四日(火)

教育プラザ

○役員選出

○事業報告と決算報告

○事業計画・予算について

○今後の事業について

二 第二回郡市部長研修会

業務の軽量化・効率化の視点から、第二回郡市部長研修会は、電子メールにて事業報告と決算報告を行うことで代替した。

平成二十八年年度 研究大会

キャリア
「社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の在り方」
第四十二回関中進茨城大会 会長 井坂 健一

平成二十八年十一月四日に開催された第四十二回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会茨城大会は、県内はもとより、関東各都府県、鹿児島県や愛媛県など各地からたくさんのお客様をお迎えして盛会のうちに大会を終えることができた。

今大会は、「社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の在り方」を大会主題として、全県をあげて研究を進めてきた。県内各ブロックを研究部、分科会部、編集部、運営部に分けてそれぞれに準備を進めてきた。

大会当日は、午前中に那珂市総合センター「らぼーる」を会場に、開会式・全体会を行った。実践発表として、授業公開校である白鳥学園 那珂市立瓜連小学校の羽鳥功二郎教諭が、瓜連小学校・瓜連中学校での三年間積み上げてきた研究実践の成果を発表した。また、記念講演では、株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック代表取締役社長の沼田邦郎先生に「水戸ホーリーホックで学んだ『育成』ということ」という

演題で講演していただいた。午後には、「郷土を愛し、夢や希望を持ち、自らたくましく生き抜く児童生徒の育成」の研究主題で、白鳥学園 那珂市立瓜連小学校で公開授業を行った。地域ボランティアの協力を得て、二年生、三年生が学年授業を、一年生と園児、四年生と七年生、五年生と八年生、六年生と九年生の交流授業により、三年間の研究の成果が公開され、三百名を超える参観者から好評を得た。また、六分科会を開催し、本県及び関東各都府県の代表による提案発表に対し、各分科会とも熱心な協議が行われた。

グローバル化や少子高齢化が加速度的に進む中で、一人一人が生涯にわたって能動的に学び続け、そのために必要とする様々な力を養い、その成果を社会に生かしていくことが可能な生涯学習社会を目指していくことが求められる。そして、そのような社会を生き抜く力の養成のための様々な取組の中にキャリア教育の充実が位置付けられ、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度

を身に付けさせること。職業を通じて社会の一員として役割を果たすことの意義についての理解をはじめ、勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立できる児童生徒の育成することが重要である。この現状を踏まえ、今大会全体を通して、次の四点が確認された。

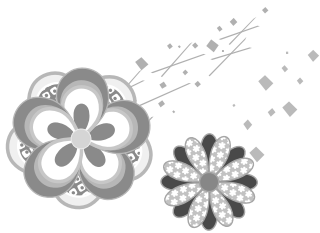
(一) 幼児期の教育から各学校段階を通じて体系的・系統的なキャリア教育を充実し、推進する必要がある。

(二) 子供の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じて指導を進める。

(三) 職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域社会や産業界等と連携・協働した取組を推進する。

(四) 社会的・職業的自立に向け必要な能力を育成するキャリア教育を推進する。

最後に、本大会の開催に際しまして御支援・御協力いただきました茨城県教育委員会、茨城県教育研究会、茨城県学校長会、那珂市教育委員会、公益財団法人日本進路指導協会、日本キャリア教育学会、全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会、茨城県教育公務員弘済会の皆様方に厚く感謝申し上げます。





5年生算数「割合」タブレットを活用し、
思考力表現力の育成を目指す授業（古河市立古河第一小学校）

平成28年度 郡市支部の研究活動と 次年度の構想

水戸 上田 壽行

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニング等の研究と実践に取り組み、大きな成果を収めることができた。

次年度も、水戸市総合教育研究所と連携を図り、会員間の協力体制を更に強化し、事業内容の工夫改善により、魅力ある「水戸スタイルの教育」の推進に努めたい。

笠間 青木 勝照

本年度は特に、一月に行った教育実践発表会において、元文部科学省視学官の杉田洋先生を招聘し、アクティブ・ラーニングや学習指導要領の改訂に関する講演を聞き、理解を深めることができた。

次年度も、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を中心に、本年度の成果と課題を踏まえ、各事業の充実を図っていききたい。

ひたちなか 石川 富子

本年度は、市学校教育活動推進のためのキーワード「夢・感動・笑顔」の実現を目指し、「続学びのきざし」を活用した学びの集団づくり、夏季講演会、指導と評価の作成、小中連携による学力向上等に取り組んできた。次年度は、新事業の「授業公開協力者制度」

の充実を図り、次期学習指導要領の実施に向けて研修を深めたい。

常陸大宮 海老根 裕

本市の掲げる「郷育立市」を基に、郷土愛に富み調和のとれた児童生徒の育成に努めている。今年度も重点研究部を指定し、研究活動の充実を図り成果を収めた。教育講演会では、金沢工業大学の白木みどり先生を招聘し、道徳教育についての講話を頂いた。

次年度も今年度の成果と課題を踏まえ、一層の充実を図りたい。

那珂市 川又 暢

本年度は、那珂市小中一貫教育開始二年目であり、各学園ごとの課題解決に向けた研究・研修に取り組み中、会員の資質向上に努めた。

また、八月の本市教育研究会集でも五研究部から六つの提案発表があり、それは全て小中一貫教育の深化に寄与する内容であった。次年度も各事業内容の工夫改善を基に活動の活性化に努めたい。

小美玉 廣戸 隆

本年度は、各専門部・教科領域部が研修会や授業研究会を推進し、会員の資質向上に努めた。教研发表会、教研指定発表会（堅倉幼・玉里小）、教育論文募集を行い、会報や研究紀要としてまとめ

た。また、木下晴弘氏を講師に教育講演会を開催した。

次年度は、「小中一貫教育」を中心に各事業の充実を図りたい。

東茨城 古市 敏夫

八月に郡教研发表大会を大洗小を会場に実施し、全会員の七割にあたる二百五十名余りが一堂に集まって六研究部十一の研究発表による研修を深める機会となった。

次年度は、本年度の成果と課題を基に改善を図り、発表予定の研究部を中心にさらに研究を進め、郡内小中学校の児童生徒の教育発展に資するよう努めていきたい。

那珂郡 綿引 正浩

教師力を高めると共に、児童生徒の生きる力を育むために、具体的実践を通して研修を深めてきた。

実践の一つとして、中丸小学校において「自分の考えを適切に表現できる児童の育成」をテーマにした研究発表会を開催し、充実した研修を行うことができた。

次年度は、照沼小学校で研究発表会を開催し研修する予定である。

久慈 清水 雅人

本年度は、「授業力向上」「道徳教育と体育・保健指導の充実」「特色ある学校づくりの研究」「郷土教育『大子学』の推進」を重点と

して諸事業に取り組んだ。研究会での発表、各研究部の研究や筑波大学との連携事業等の充実により、成果を収めることができた。

次年度も事業内容の工夫改善を図り、会員の資質向上に努めたい。

日立 作間 忍

本年度の研究目標に基づき、各教科・領域研究部を中心に課題解決を進め、研究集録に蓄積することができた。また、研究発表大会、教育論文、先進校調査研究等を実施し、会員の資質向上等に大きな成果を収めることができた。

次年度も、教育委員会、校長会と連携を図り、本市教育の一層の充実を図りたい。

常陸太田 寺門 正夫

「子どもたち一人一人の夢や希望を育む教育の研究と実践」をテーマに、研究内容の焦点化を図り、指導方法の工夫改善や指導に生かせる評価等の実践研究に取り組んだ。

また、今年度は教育研究発表会の在り方について検討を進めてきた。次年度に向け、更に各事業の見直し改善を進め、より効果的に充実した教育会の運営に努めたい。

高萩 山崎 慎哉

本年度の活動方針に基づき、各

教科・領域研究部の事業、市教育委員会との共催事業により、各委員の資質向上に努めた。また、高萩市・北茨城市教育研究発表会では、十一の領域分科会において、実践発表・協議を行った。

次年度学校数が七校になるが、本年度の成果と課題を踏まえ、各事業の活性化を図っていきたい。

北茨城

細谷 昭彦

「各学校の課題を明確にし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するための研究に努める」を研究目標に取り組んできた。「学校の特色を生かした教育課程の編成と実践」「学習指導の改善と充実」など、今日的な課題解決に向けて成果をあげた。次年度も、新たな教育課題への対応に向けて、事業内容の工夫や改善に努めたい。

鹿嶋

鬼沢 庄司

「地域とともにすすめる特色ある学校づくり」をテーマとして、教育活動の更なる向上を目指して取り組んだ。

教育研究発表会は八月に個人、一月に学校発表を行い、市内中学校の研究のまとめとして研究集録第二十一集を発刊した。

次年度も授業改善プロジェクトに取り組んでいきたい。

神栖

須田 匡信

本年度の主な取組は、各研究部・教養部等における研修に加えて、①教育研究発表会及び講演会②市統一テスト③指定研究発表会(三校)④小学校陸上記録会⑤小中学校音楽発表会⑥「神栖の子」発行等である。次年度も活動内容の精選化・重点化と神栖市授業スタイルの拡充を図り、委員の資質向上に努めたい。

鉾田

荒井 保雄

鉾田授業スタイルの推進と充実を目指し、小中学校十校が授業公開を行った。来年度もアクティブ・ラーニングを取り入れた授業公開を進めていく予定である。また、本年度市内全校に教育機器(タブレット等)の導入が行われ、来年度より情報研究部を中心にタブレットを活用した授業研究を推進したい。

潮来

石井 澄子

本会は、「笑顔」をスローガンに掲げ、教職員の資質向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指し、研究・修養に励んできた。

特に、研究指定校の発表やアクティブ・ラーニングの視点による授業改善、教育論文等への積極的応募、幼保小中連携による教育活動の実践で、大きな成果をみた。

次年度も更なる充実を図りたい。

行方

薄井 則夫

本年度は、学校等適正配置計画による統廃合が完了したことにより、幼・小・中の連携強化と開かれた学校づくりに努めてきた。また、教育研究発表会、市教育会研究指定校の発表会(玉造小学校、麻生中学校)を実施した。

次年度は、新教育課程も視野に入れながら研究を進め、一層の充実を図っていきたい。

土浦

齋藤 浩一

各研究部ごとに、本年度の研究の重点を踏まえ、具体的な研究目標・内容を設定し、研究活動を推進してきた。全員研究協議会では、二十五名の発表者を中心に講師を招いた活発な研究協議が行われた。次年度も、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に努めたい。

石岡

児島 裕治

本年度は、各研究部の研修に加え、研究発表会、研究指定校発表会、教育論文発表会等を実施し、教職員の資質向上に努めてきた。

併せて、市独自の「ふるさと学習」の実践研究が確実に進められた。次年度は、各学校や各研究部の成果と課題を踏まえ、石岡市の教育目標実現に向け、事業の工夫改善及び研究活動の充実を図りたい。

龍ヶ崎

藤ヶ崎 敦

本年度は、児童生徒の学力の向上にむけ、中学校区の小中連携による細やかな学習指導の実施、外国語活動の充実、ICTを活用した授業実践をした。現在まとめの「龍ヶ崎教育」を編集している。

来年度は、本年度の成果と課題に基づいて、主体的・対話的で深い学びの実現がなされるよう、各研究部の実践研究を進めたい。

取手

海老澤 勲

本年度は、「知性に富み心身ともに健全な児童生徒の育成」を研究テーマに、二十二の研究部で研究授業や実技研修を行った。中学校区ごとに、キャリア教育を基盤とした小中連携から、カリキュラムマネジメントによる教育活動の内容の改善を図っている。

次年度も成果と課題を踏まえ、研究の改善充実を図っていきたい。

牛久

岩田 博

本年度も各小中学校が毎月実施している校内授業研修会に中学校区を中心に参加し、共同的な学びによる授業づくりを推進した。小中が同じ授業スタイルで授業を進めるため、実質的に授業を中心とした小中一貫教育を実現できた。今後、アクティブ・ラーニング

の視点からの授業改善を進めていく予定である。

つくば

矢口 和子

小中一貫教育を一層充実させ、発信型プロジェクト学習である「つくばスタイル科」による次世代型スキル育成への積極的な取組等、創意溢れる教育の推進をしてきた。

二十四研究部による実践的な研修、夏季研究発表会、教育講演会、教育論文発表会等を通して、会員が相互に学び合うことができた。

守谷

椎名 和良

「たくましく生きる力を育む教育」をテーマに実践に取り組んだ。秋には二指定校の研究発表会を開催し、各中学校区のテーマに沿った一貫教育の達成状況を参観した。今年度から県南地区の小中学校にも案内し、また、市内の私立小学校・幼稚園・県立高校にも参加いただき幅広い研修交流を実施した。

稲敷市

篠原 輝一

「生きる力のある園児・児童・生徒の育成」のテーマのもと、研究実践に取り組んだ。八月の全員研修会、秋の研究委嘱校二校の研究発表会、二月の教育論文表彰式での優秀論文発表を通して、委員の資質能力の向上に努めてきた。次年度は、次期学習指導要領を

見据えて、各研究部の活動をさらに充実させていきたい。

かすみがうら

宇津野英広

本年度は、「創意を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善」を研究目標とし、研究発表会、教育講演会、研究論文発表会、研究指定校発表会、研究集録の作成、各部会の研修会及び児童活動等を中心に活動してきた。次年度は、本年度の成果と課題を十分に踏まえて改善し、更なる充実を図っていきたい。

くしばみらい

飯田 文夫

本年度はアクティブ・ラーニングに視点をあてて活動してきた。夏季一斉研修会では「アクティブ・ラーニングで子どもの学びを変える」という演題で教育調査研究所研究部長寺崎千秋先生の講演会を開催し、具体的な授業づくりのポイントについて研修した。今後も新たなニーズに対応した教育活動の充実に努めたい。

稲敷郡

赤上 富彦

本年度は、十月と十一月に阿見町立阿見第一小学校・河内町立金江津中学校において、郡教育研究会委嘱の研究発表会を実施した。発表会には、多くの会員が参加し、成果を得ることができた。次年度

は、新たな教育課題に対応するために、郡内で連携を図りながら強みを生かした研修に取り組み、会員の資質向上に努めていきたい。

北相馬

仲田 義弘

本年度は、教職員の資質・能力の向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指し、夏季研修会や研究発表会、音楽を楽しむ会等を開催し、「とね研だより」に成果と課題をまとめることができた。次年度は、学習指導要領等の改訂を踏まえた研修の充実に努めたい。

古河

和久 俊明

学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の資質能力の向上と児童生徒の自己教育力の育成を目指し、各研究部の活動を中心に研修会や発表会を実施した。成果と課題については、「研究紀要第十一集」にまとめた。次年度も国・県の動向や本年度の成果と課題を踏まえ、創意と工夫を生かした古河の教育を推進していきたい。

結城市

塚越 敏典

本研究会指定二年目となった絹川小学校と結城中学校で授業公開と研究発表を行った。両校とも対話的な学びの過程を重視した実践研究であり、アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善

の報告であった。児童・生徒主体の「結城スタイル」の授業確立に向け、来年度も充実した活動を展開していきたい。

下妻

齊藤 修一

本年度は、教職員の資質能力の向上と児童生徒の「生きる力」の育成に努め、各研究部の活動を中心に、全会員が自主的・実践的な研究を計画的に推進してきた。指定研究では、市教委と連携し六校が研究実践の成果を発表した。次年度も本年度の反省を生かし、より一層の活性化を図るとともに、会員の資質能力の向上に努めたい。

常総

近納 代幸

本年度は、各研究部の活動を中心に研修会や授業研究会、さらに独自研究発表会（小学校三校）、教育論文募集等を通して会員の資質向上に努めた。特に夏の教育講演会では、会員の防災意識の高揚を図ることができた。

次年度は、本年度の反省を生かし、防災教育の充実など新たな教育課題の対応に努めていきたい。

筑西

須藤 和彦

本年度は、いばらき教育プランや学習指導要領等の趣旨や内容に基づいた教育活動を推進し、児童生徒の「生きる力」の育成と教職

員の資質・能力の向上に努めた。また、各研究部による授業研究会や四校の指定発表会、教育論文募集、研究紀要の発行等を行った。次年度も新たな教育課題への対応等、研修の充実に努めたい。

坂東

野口美千代

本年度は、「魅力ある学校づくり」を目指し、各研究部の活動の見直しや改善に努めた。市指定発表会では、小中一校ずつ発表会を実施した。両校とも研究の深まりが見られた実践発表で、多くの成果を得ることができた。

次年度も、本年度の反省を生かし、組織の見直しを図りながら、更なる教育活動の充実に努めたい。

桜川

榎戸 元

本年度は、次期学習指導要領の方向性を踏まえ、主体的・協働的な研究活動を推進した。授業力向上を目指す指定校授業研究会は、谷貝小、紫尾小、桜川中の三校で実施した。各研究部や研修部の事業は、年間計画に沿って推進し、各々成果を上げることができた。

次年度も、本年度の反省を生かして、一層の充実に努めたい。

結城郡

沼尻 均一

「自ら学び豊かな心をもつ子どもを育てる」のテーマのもとに、

「学びとの出会い」「友人との出会い」「先生との出会い」を大切に、輝きのある学校づくりに取り組んできた。特に、研究指定校の実践発表や最優秀教育論文の実践報告会は貴重な研修の場となった。

次年度も県の動向や本年度の成果と課題を踏まえ、更なる活動の充実を図っていきたい。

猿島

逆井 昇

本年度は、教職員の資質・能力の向上と児童生徒の学習意欲の向上を目指し、各教科領域部を中心に研修会、授業研究会や各種行事等に意欲的に取り組んできた。

次年度は、本年度の取組を検証し、その成果と課題を踏まえ、活動の活性化を図るとともに、更なる教育活動の充実を図っていきたい。

茨大附属

勝本 真

四附属校園の定例公開授業に加え、小中学校「道徳」の公開授業も開催し、研究成果を発信することができた。新設の教職大学院の教育実習も始まった。

次年度は、次期学習指導要領への対応も視野に入れながら、大学や四附属校園間及び公立学校との連携を深め、各校園それぞれの特徴を生かし研究を充実させたい。

専門委員会 平成28年度の まとめ

組織活性化委員会 木村 明弘

一 アンケートの実施

茨城県教育情報ネットワークのアンケート機能を活用して行った。対象は、県内全小中学校、特支学校、義務教育学校の教務主任等とした。内容は、①少人数指導の充実について②アクティブ・ラーニングについて③県教育研究会の事業等についてである。約八十八%の回収率となり、それらの集計及び考察を行った。結果については、県教育研究会のHPを「覗いたきたい」。

二 課題検討委員会の実施

新たな組織のもと右記のアンケート結果を踏まえ、少人数指導の充実や県教育研究会の事業等についての課題検討と要望のまとめを行った。HPで公開中である。

三 次年度の活動方針案の策定

業務の効率化や組織の活性化を

推進し、研究目標の具現化に努めることを基本的な考え方とした。

会報・紀要委員会 沼田 祐一郎

本年度は、三回の会報発行と研究紀要を編集し発刊しました。会報・紀要委員会専用のメールボックスによる原稿集約も定着し、効果的に編集作業を進めることができました。

ご多用の中、玉稿をお寄せくださいました諸先輩・研究会役員の皆様、各支部長及び各専門委員長の皆様をはじめ、会員皆様に心より感謝申し上げます。

一 会報の発行

- (一) 第一七二号 (七月十四日) 「活動方針・事業計画」
- (二) 第一七三号 (十月六日) 「教育座談会」 「提言」
- (三) 第一七四号 (三月三日) 「本年度の事業のまとめ」 「県外派遣研修報告」

二 研究紀要の発行

(三月十日予定) 教育論文優秀賞 (全文) と優良賞 (概要) の掲載

学力調査委員会 皆川 澄雄

本年度も、確かな学力の定着・

向上につながるよう、県教育委員会との共催で「学力診断のためのテスト」を実施しました。毎年見直し・工夫改善を加え実施しています。問題作成委員を県内より選出し、問題作成にあたりました。

一 趣旨

- 学力の実態把握・定着・向上
- 二 対象学年：小三～中三

三 実施教科

- 小三～小六：国・理・算・社
- 中学……英・国・数・社・理

四 実施日

- 中三……十一月八日 (火)
- 小三～小六……十一月十二日 (水)
- 中一・中二……十一月十一日 (水)

五 テスト結果の集計・分析

- 分析システムの配信 (県教委)
 - ・ 一月中旬 (中三は十一月)
 - ・ 二月上旬 (中三は十二月)
- 集計結果の配信 (県教委)

教育論文委員会 檀戸 元

第五十一回教育論文募集に取り組み、次の結果となりました。

- 一 応募総数 一九一点
- 個人研究 一六六件
- 共同研究 二五件
- 二 審査結果 (入選)
 - 優秀賞 五点
 - 優等賞

「優等賞」 横田英一 外全職員

(行方市立北浦中学校) 「県議会賞」 渡邊 護 (常陸太田市立瑞竜中学校)

「県教育賞」大原甚一 外全職員 (鉾田市立鉾田北中学校)

同 菊池正美 外全職員 (稲敷市立あすま南小学校)

同 戸部明彦 外全職員 (取手市立取手第一中学校)

○ 優良賞 二五件

○ 佳作 一二件

三 表彰式・発表会 二月七日 県教育振興大会

四 教育論文集の刊行 教育論文 第五一集

WEBページ運営委員会 陶 慶一

本年度より、WEBページの管理が業者委託となり、掲載内容の更新の見直しやセキュリティの向上を図ることができ、安全なWEBページの運営を図ることができました。

今後とも、教育プラザいばらきWEBページ管理委員会と連携しWEBページの充実に努めてまいります。

一 教育プラザいばらきWEBページ管理委員会への参加

○ 第一回 (六月) 組織の編成、方針の確認

・ WEBページ管理委託契約に係る変更について

二 茨城県教育研究会WEBページ運営委員会

○ 第一回 (六月) WEBページの現状と対応

・ WEBページ更新に係る規則、更新方法の確認

三 管理委員会との連携

へき地・小規模校運営委員会 若上 賀子

本委員会は、へき地・小規模の小さな小中学校のよさを活かした学校教育の充実・発展に向けた取り組みを行いました。

一 郡市委員長研修会の開催

(一) 第一回 五月十八日

(二) 第二回 十二月十五日

二 小さな学校の教育研修会の開催

○ 日上市立山部小学校 七月一日

三 全国へき地教育研究連盟秋季総会・青森大会への参加

十月十二日・十三日・十四日

四 関東甲信越へき地教育研究大会 (東京・大島、新島、八丈島)への参加・発表

○ 日上市立山部小学校 (発表) 十一月二十四日・二十五日

五 全国へき地教育研究連盟推進協議会への参加

○ 茨城県の現状報告書提出 十二月一日・二日

六 関プロ代表者会議への参加

好文亭 一文芸欄



空見上げ 春待つ寒梅 日々草々
我が胸に今 咲きし一輪

同 萩原 恵子

白梅や 深呼吸で 満ちた朝

同 谷田川 博子

寒風に 子どもの笑顔 咲き乱れ

同 生井沢 美希

牛久市立ひたち野うしく小学校
凍る朝 童跳び縄 心温む

同 加藤 洋子

子どもらと 稀勢物語 ひたち野で

同 柏 頼康

給食が おいしかったと 兄のえがお
うれしさ味わう 別れの三月

同 岩瀬 充子

次々に 竹蜻蛉揚がり 冬晴る、

同 柳沢 玲子

いにしへの 香炉の如き 教え子よ
わが身の幸せ 計れぬものなり

同 近藤 和子

阿見町立阿見第二小学校
グラランドの 草に挑んだ 夏休み

同 加藤 宗治

卒業後 窓辺に佇む 教師かな

同 小泉 真

金星が 月によりそう 初御空

同 大和田 巧

桜咲き 川のせせらぎ 森の声
耳をすませば 希望の光

同 西本 義一

今年こそ 初日に誓いし 新たな決意
三日過ぎ往き 我が身にエール

同 芳賀 千重

上げえなや 郷土の誇り 稀勢の里
我らも負けずに がんばっぺな

同 岡野 郁美

声高に 自己主張など しなくとも
ただそこに在る 白梅の花

同 前野 睦子

できたよと はなぶくらまし 春来る

同 池田 いずみ

立哨の 過ぎゆく車の 通勤者
笑顔の会釈が 子どもたちを守る

同 松本 亨

球根の 成長を待つ 子らの目は
水面にうつり きらきら輝く

同 斉藤 陽枝

北風が つぼみを豊かに 膨らませ
年々大きく 葉を茂らす

同 西村 務

パンジーの 寄り咲く姿 子に見立て

同 深谷 仁

こどもらの 寄る声白く 雪の朝

同 渡辺 信之

夢抱き 未来に羽ばたく 春の朝

同 鈴木 寛志

ひとりごと
小美玉市立納場小学校

大野 友美

自分で引いたスタートライン
異動しました 小学校

同 新たな自分とこんなには

低学年ともお話できます
中学年にはからかわれます

同 毎日 元気な納場っ子

インフルエンザだ さあ大変
風邪も入れたらお休み五人

同 クラスにいるのは 十八人

もうすぐ卒業 六年生
入学するのは 前任校

同 かわいい後輩 よろしく先輩
あつという間の 一年間

同 旅先にて
高萩市立高萩中学校

志賀 美奈子

それは唐突に現れた
視界いっぱいブルー

同 松林に背を向けて
どどど、と音がするほうへ

同 澄んだ水色の空は広がる
波は五色の浜を走り抜ける

同 幾度も砂利を濡らす波は
さわやかに力強く

同 右には海津見神社
左には竜王岬

同 左に思い描いてきた 夏の桂浜
まるで憧憬の絵画
これが土佐の海

編集後記

月日が経つのは早いもので、平成二十八年度も残すところ一ヶ月となりました。今回の号は、今年度最終号となりますので、各都支部、各研究部の取組などのまとめとなるように編集しました。

今回の内容は「カリキュラムマネジメント」の研究と、「アクティブラーニング」の視点からの授業改善というテーマのもと、特集として「第六十八回茨城県教育振興大会並びに研修会」「本年度の事業のまとめ」「県外教育事情調査報告」を掲載しました。また、「関プロ大会報告」「第五十一回教育論文優秀賞受賞のよろこび」も掲載しました。

今号が、これからの各学校における特色ある教育課程の実践につながる幸いです。

会報発行にあたり、ご多用の中原稿をお寄せいただきまして皆様方に心よりお礼申し上げます。

- ◎八木 克弘(ひ・中根小)
- ◎飯田 一成(東・長岡小)
- 菊池 彰伸(水・五軒小)
- 三浦 広興(水・見川中)
- 水野 秀樹(東・大洗小)
- 長谷川恵子(水・常磐小)
- 栗本 祐輔(水・内原中)